

印旛沼にトキを呼ぶ米づくり

私は、印旛沼干拓田で2006(H18)年から冬期湛水による米づくりを初めました。これは印旛沼流域水循環健全化会議・千葉県の「冬期湛水研究プロジェクト」の一員としての5年間農薬を使わない稲作への挑戦でもありました。このプロジェクトでは多くの専門家による生物や水質、水量、土壌などの調査もおこなわれ、その結果、冬期湛水によって水が浄化され、生物多様性が向上し、またたくさんのお米も収穫でき、水田が本来持っている多面的機能の復活が確認されました。さらに、2012(H24)年2月には、冬期湛水田に、コハクチョウの群れ



三門増雄

が飛来しました。このことは、印旛沼に生息環境を整えばいろいろな自然の恵みを与えてくれるということを教えてくれた出来事でした。

米づくりと生き物が共生する事で自然とその生態系を再生し、印旛沼周辺の環境保全へとつながります。そして沼の水がきれいになり、また田んぼにトキが来るような米づくりの農業を目指します。



子どもたちの未来への環境再生

私たち大人が破壊してしまった印旛沼周辺の豊かだった環境、次の世代の子どもたちにどのような姿にして返すべきか？…それは、私たちが親しく、自由に友達のように遊んだかつての里山の姿であり、自然豊かな田圃の姿ではないでしょうか。

- 春—田圃にはドジョウ・メダカ・フナ・カエル、
時にはウナギが
- 夏—沼では水辺で遊ぶ子どもたちの喜びの音が
- 秋—黄金色に実った田圃にギンヤンマ・
オニヤンマが
- 冬—きれいに間伐された杉山の杉木には
可憐なリスが



撮影：田中正彦

このように豊かな自然を友として遊び楽しむ環境から、子どもたち一人ひとりの絆が生まれ育っていくのでしょう。次の世代のために、下総に「トキ」を呼ぼうではありませんか！

皆様方のお力をお貸し下さい。

下総トキ誘致懇談会 代表 太田 勲

トキ誘致懇談会(年会費1,000円)への問い合わせは下記までお願い致します。
〒285-0837 佐倉市王子台(株)大和内 Tel:043-462-2123 Fax:043-462-4323
振り込み先:トキ誘致懇談会代表太田勲 千葉銀行臼井支店(298) 普通口座3589232



編集・デザイン 中村俊彦

下総にトキ (案2)

(鴉・朱鷺・Nipponia nippon) を呼ぼう！



かつて下総地方の里山里沼の谷津田には、その生物多様性豊かな環境にトキが生息していました。
私たちは、子どもたちの未来のため、人々の暮らしのなかに豊かな環境を再生し、またトキが飛来する夢をかなえたいとおもいます。



絵 浅井桑男

トキ誘致懇談会

なぜ下総にトキ？

かつての千葉県には、たくさんのトキが生息していました。

● ニューヨークのアメリカ自然誌博物館には、1895年に「Shimosa, Japan」で採集されたトキの標本が保管されています。

● 日本の太平洋岸地域での最後のトキの記録は、1953(昭和28年)12月に市原市五井の飛来記録です。そのトキの姿を見た日本画家の時田直善さんは「寧日/鶺鴒その3」(市原市所蔵・右上写真)など、トキを描いた多くの作品を残しています。

● 千葉県には「鶺鴒田」「鶺鴒崎」「鶺鴒」の名字が大変多く、「鶺鴒崎」「鶺鴒谷」の地名、東金市には「鶺鴒峰」の地や「鶺鴒嶺(ときがね)小学校」があります。「東金」はまさにこの「ときがね」から由来した地名との説もあります。

● 長柄町の飛鳥時代の横穴墳には、トキの姿とおもわれる壁画(下写真)が残されています。

● 芝山町で毎年開かれる「はにわ祭」では、参加者は古代の衣服を着て、トキの顔そっくりに目の周りを赤くした化粧をします(右写真)。

いろいろなトキとのかかわりのある千葉県です。



新潟県佐渡市の谷津田にて

日本の最後のトキの「キン」が、36才の天寿を全うしたのは2003年10月でした。しかしながらその後の多くの人の努力により、中国にいたトキを日本で繁殖させることに成功し、またトキのえさが豊富な水田づくりなどにより、現在では、佐渡や本州の日本海側地域で100羽を超える野生のトキが生息するまでになりました。

千葉県・下総の空にトキが舞うことは、決して夢物語ではないのです。



佐渡の谷津田でえさを捕るトキの群れ

2014年9月22日 写真・中込 哲

水田でえさ捕る「里山の鳥」のトキ

トキは、かつて日本をはじめ東アジアに広く分布し、水田や湿地で小動物を捕らえ、またその近くの森で巣作り子育てをしていた、言わば「里山の鳥」です。伝統的でいねいな米作りの水田はタニシやドジョウなどのトキのえさを増やし、また、里山での人々の活動はトキの天敵、テンや猛禽類などを近づけない状況をつくっていました。

下総の里山、特に谷津田と雑木林さらに印旛沼の水辺環境のセットは、トキにとってはこの上ないすばらしい生息環境でした。しかし、近代化する人の暮らしの変化は、水田や米作りを変え、里山を変えてトキのすめない環境でおおいつくしてしまいました。



日本のトキ (2015年6月10日時点)

野生・102羽 飼育・204羽